



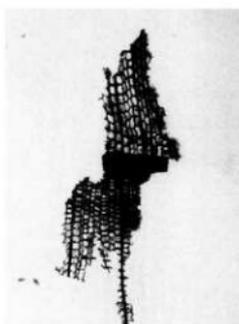
木口面 30倍
No 160 漆器皿 ブナ



板目面 100倍



板目面 50倍



木口面 30倍
No 161 下駄 スギ



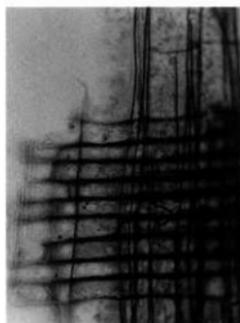
板目面 200倍



板目面 50倍



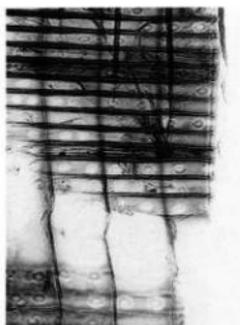
木口面 30倍
No 162 下駄 スギ



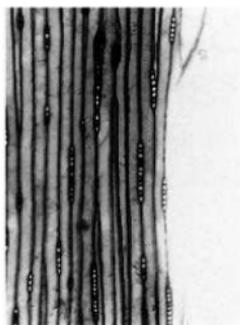
板目面 200倍



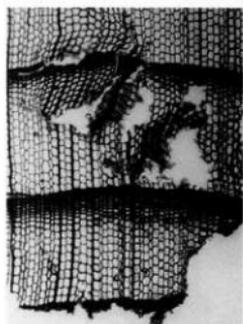
木口面 30倍
No 163 曲物底 スギ



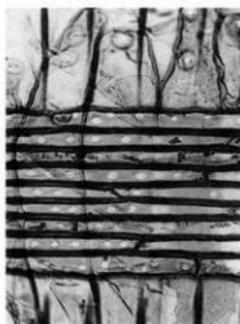
柁目面 200倍



板目面 50倍



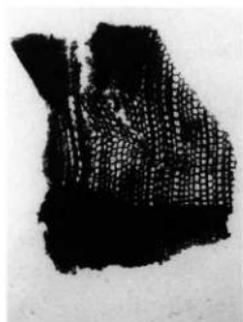
木口面 30倍
No 167 曲物底 スギ



柁目面 200倍



板目面 50倍



木口面 30倍
No 168 へら スギ



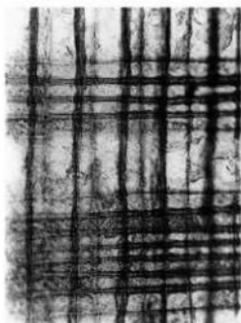
柁目面 200倍



板目面 50倍



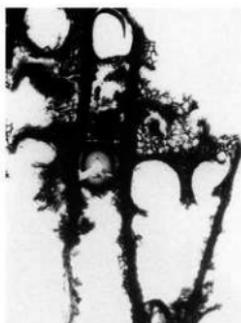
木口面 30倍
No 175 木蓋 ヒノキ



柀目面 200倍



板目面 50倍



木口面 30倍
No 188 漆器碗 ケヤキ



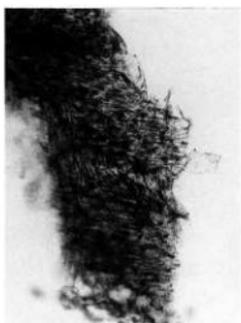
柀目面 100倍



板目面 50倍



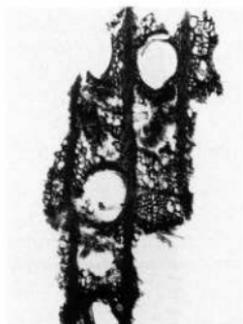
木口面 30倍
No 189 漆器碗 ケヤキ



柀目面 100倍



板目面 50倍



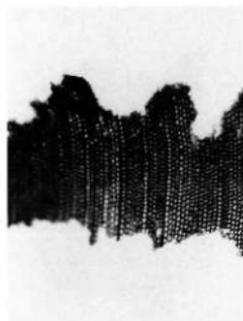
木口面 30倍
No 190 漆器碗 ケヤキ



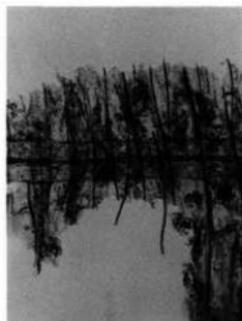
根目面 100倍



板目面 50倍



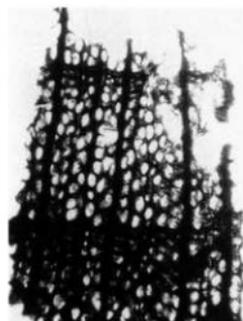
木口面 30倍
No 201 漆器蓋 ヒノキ科



根目面 200倍



板目面 50倍



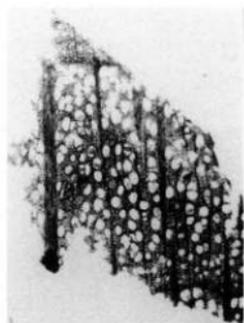
木口面 30倍
No 202 漆器碗 プナ



根目面 100倍



板目面 50倍



木口面 30倍
No. 203 漆器碗 プナ



柁目面 100倍



板目面 50倍



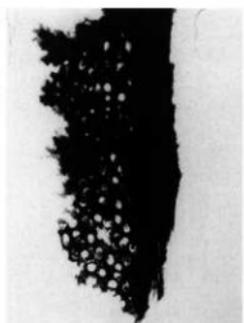
木口面 30倍
No. 204 漆器碗 プナ



柁目面 100倍



板目面 50倍



木口面 30倍
No. 205 漆器碗 プナ



柁目面 100倍



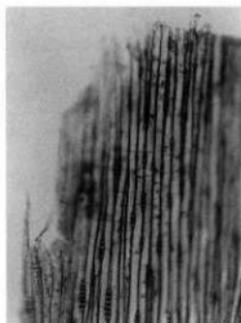
板目面 50倍



木口面 30倍
No 211-1 曲物(底板) ヒノキ



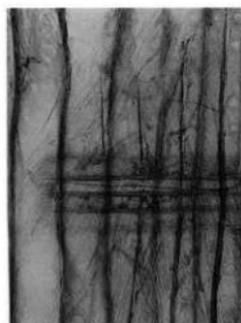
柁目面 200倍



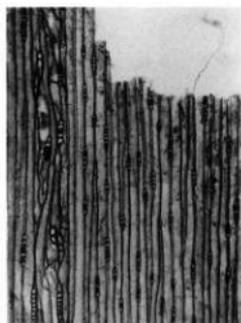
板目面 50倍



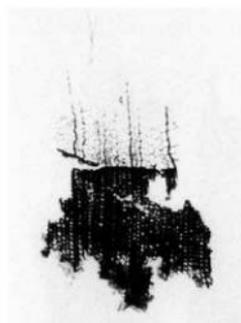
木口面 30倍
No 211-2 曲物(側板) ヒノキ



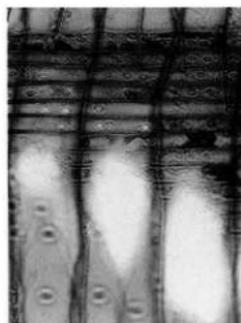
柁目面 200倍



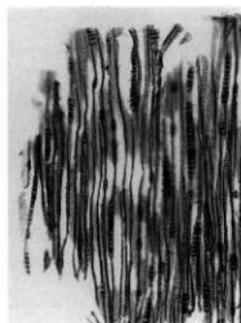
板目面 50倍



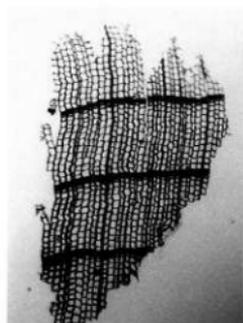
木口面 30倍
No 212 円盤状 スギ



柁目面 200倍



板目面 50倍



木口面 30倍
No 213 板 ヒノキ



柁目面 200倍



板目面 50倍



木口面 30倍
No 214 円盤状 ヒノキ



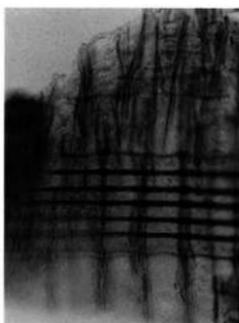
柁目面 200倍



板目面 50倍



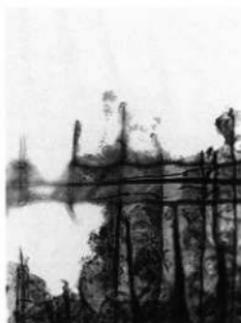
木口面 30倍
No 215 底板 スギ



柁目面 200倍

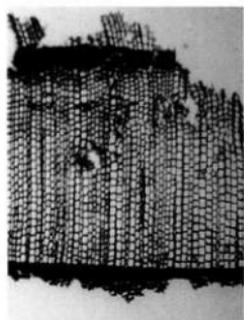


板目面 50倍

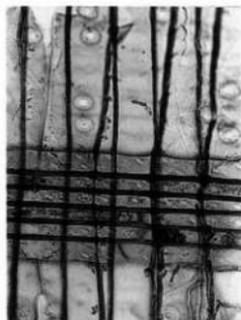


柁目面 200倍

No 216 棒状 ヒノキ科



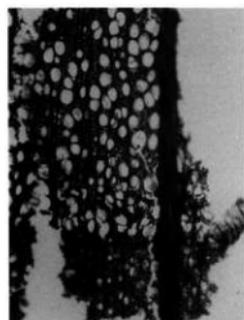
木口面 30倍
No 217 板状 ヒノキ



柁目面 200倍



板目面 50倍



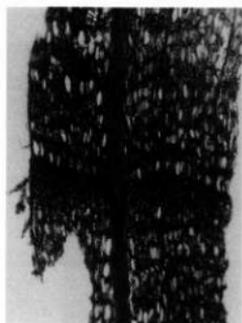
木口面 30倍
No 218-1 木白 ブナ



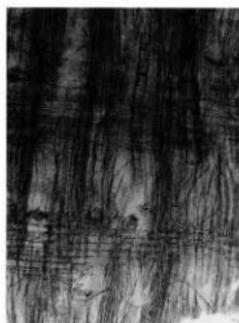
柁目面 100倍



板目面 50倍



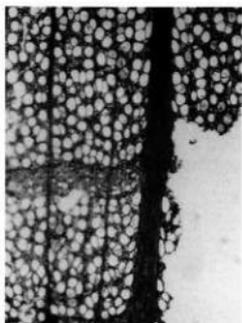
木口面 30倍
No 218-2 木白 ブナ



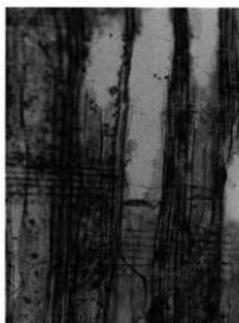
柁目面 100倍



板目面 50倍



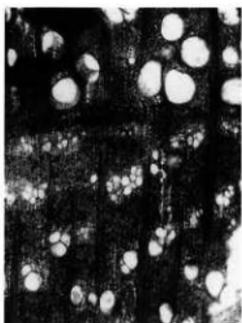
木口面 30倍
No 219 木白 ブナ



柁目面 100倍



板目面 50倍



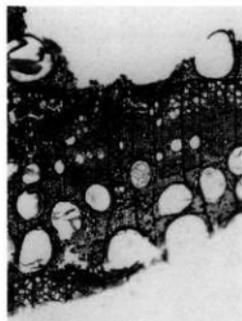
木口面 30倍
No 220 柱 エノキ



柁目面 100倍



板目面 50倍



木口面 30倍
No. 221 柱 クリ



柁目面 100倍



板目面 50倍



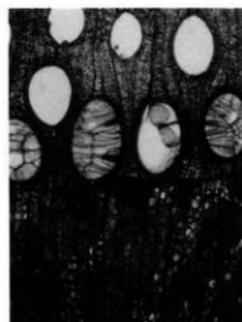
木口面 30倍
No. 222 柱 クリ



柁目面 100倍



板目面 50倍



木口面 30倍
No. 223 柱 クリ



柁目面 100倍



板目面 50倍



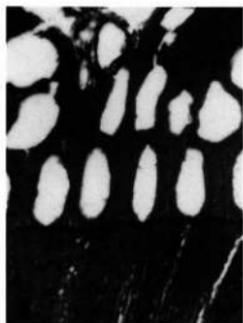
木口面 30倍
No.224 柱 クリ



柁目面 100倍



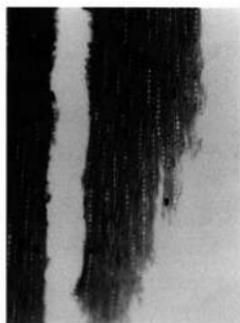
板目面 50倍



木口面 30倍
No.225 柱 クリ



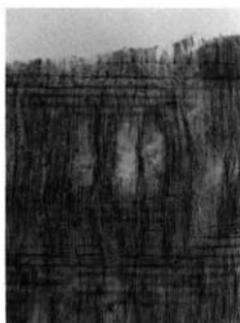
柁目面 100倍



板目面 50倍



木口面 30倍
No.226 柱 クリ



柁目面 100倍



板目面 50倍



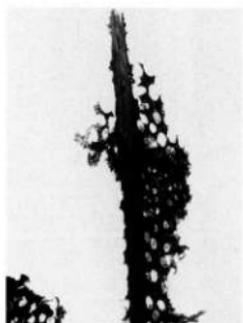
木口面 30倍
No 227 柱 エノキ



柁目面 100倍



板目面 50倍



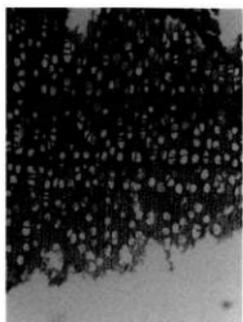
木口面 30倍
No 228 漆器椀 フナ



柁目面 100倍



板目面 50倍



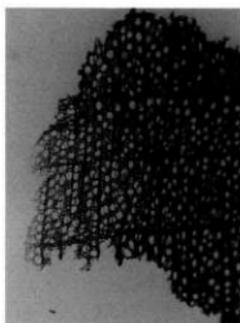
木口面 30倍
No 229 漆器椀 トチノキ



柁目面 100倍



板目面 50倍



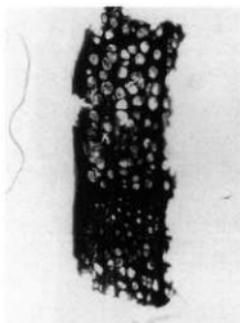
木口面 30倍
No 230 下駄 ヒサカキ



柁目面 100倍



板目面 50倍



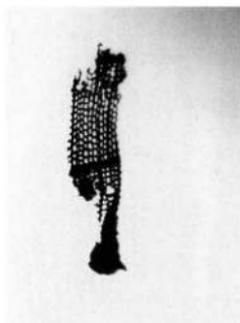
木口面 30倍
No 231 漆器椀 ブナ



柁目面 100倍



板目面 50倍



木口面 30倍
No 232 板状 ヒノキ



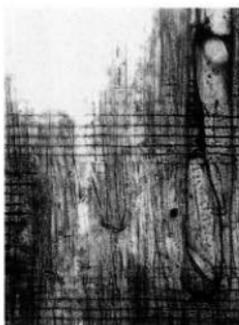
柁目面 200倍



板目面 50倍



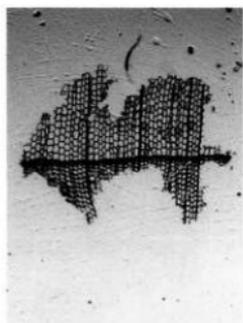
木口面 30倍
No 233 柱 クリ



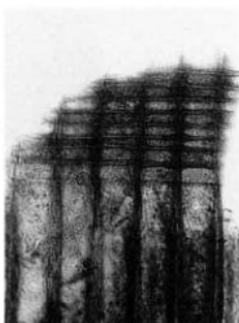
柁目面 100倍



板目面 50倍



木口面 30倍
No 234 板状 ヒノキ



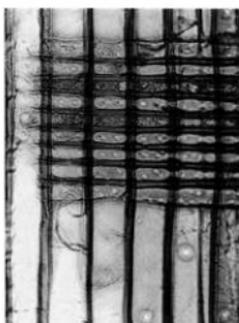
柁目面 200倍



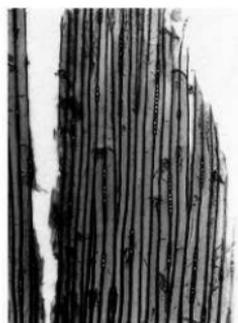
板目面 50倍



木口面 30倍
No 235 板状 ヒノキ



柁目面 200倍



板目面 50倍



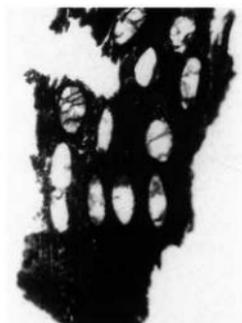
木口面 30倍
No 236 柱 ウルシ科ヌルデ?



柁目面 100倍



板目面 50倍



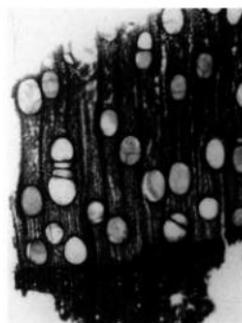
木口面 30倍
No 237 柱 クリ



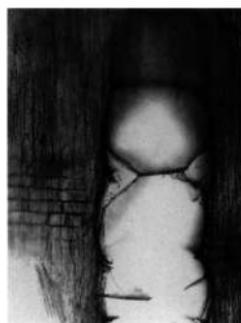
柁目面 100倍



板目面 50倍



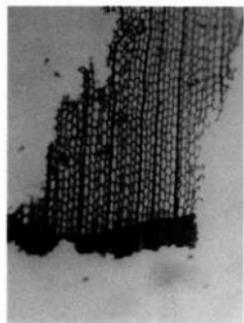
木口面 30倍
No 238 柱 ムクロジ



柁目面 100倍

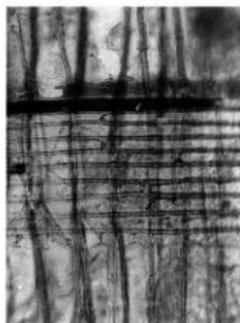


板目面 50倍



木口面
No 239 柱

30倍
スギ



柁目面

200倍



板目面

50倍

第V章 結 語

中名Ⅰ・Ⅴ遺跡では古代・中世～近世の長期に渡り、当該地域が人々の居住や生産の場であったことが明らかとなった。今回報告した調査区域の北側には中名Ⅴ・中名Ⅵ遺跡が続く。西側には道場Ⅰ・Ⅱ遺跡、東側は中名Ⅱ・持田Ⅰ遺跡がある。こうした周辺遺跡の様相も踏まえ、遺構や遺物、集落の様相をとらえていく必要がある。しかし、今後報告される部分も多く、現時点では調査区域内における遺構変遷を主に示しておきたい。

1 古代

調査区域内では7世紀代の遺物は須恵器が1点あるのみで、8～10世紀前半の出土遺物がほとんどを占める。遺構の多くもこうした時期幅の中で形成されていったと考えられる。各遺構からの出土遺物、遺構の重複関係や配置を基にして、建物を中心とした遺構の変遷を考えた。

Ⅰ期〔SⅠ06・09・10〕

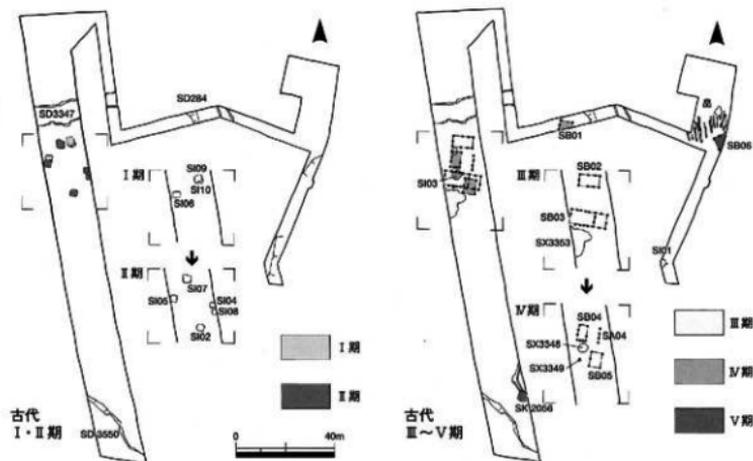
B4地区北側で礫層を避けて堅穴建物が3棟構築される。これら3棟からは内外面ハケメ調整の煮炊具が出土する。共存する須恵器やロクロ成形の土師器甕から8世紀前半としておく。建物群の北側にはS D3347、B4 S地区の南端には近世まで続くS D3550の自然流路が存在する。

Ⅱ期〔SⅠ02・04・05・07・08〕

Ⅲ期〔東西棟の掘立柱建物S B02・03、集石遺構S X3353〕

Ⅳ期〔南北棟の掘立柱建物S B01・04・05、襦列S A04、集石遺構S X3348・3349〕

Ⅱ～Ⅳ期は8世紀中頃から9世紀前半の時期幅の中で変遷する。遺構の切り合いから、SⅠ06< SⅠ05、SⅠ07・09・10< S B02、S B03< S X3348・3349となる。さらに、S X3348の成因はS B04・S A04の構築による可能性が高く、S B03< S B04になる。加えて、S X3353はS B03構築時に礫を片づけた結果として出来たと考えられ、S B03とS X3353は併存していたことになる。また、主軸方向が異なる掘立柱建物は近接しており、同時併存とは考えにくく、主軸方位を同じくする建物が



第196図 古代遺構変遷図

併存した可能性が残る。これらから、堅穴建物から掘立柱建物へと変化する、Ⅱ～Ⅳ期の変遷を考えた。ただし、Ⅱ～Ⅲ期では、掘立柱建物+堅穴建物（SB03+S I05・07）の段階があり、その後、掘立柱建物2棟（SB02・03）と変遷したとも想定できる。

V期【S I01・03、SK2056、SB06、崧】

S I03は9世紀前半で、Ⅳ期のSB04より後出する。S I01は須恵器杯の形態や、タタキ痕が残る土師器甕から9世紀中頃まで時期が下がる。SB06と隣接する点は、周辺の包含層中からロクロ成形の土師器碗の出土が多く、10世紀前半頃としておきたい。調査区内で見ると、V期の建物は単独で存在している。調査区北側では自然流路や包含層から9世紀後半以降の遺物が多く出土しており、V期では建物群が形成される居住域が調査区域外へ移動した可能性もある。

2 中世～近世

掘立柱建物の柱穴から出土遺物はいくつか確認されるものの、破片資料のみである。意図的な埋納による遺物はなく、柱穴出土の遺物のみから建物時期を判断することは難しい。そのため、建物以外にも出土遺物のある溝・井戸・土坑等の年代観や、遺構の重複関係を基にして変遷を考えた。

I期【12世紀後半～13世紀前半】：B3地区で、礎石建物SB10とSA07、掘立柱建物SB11、SK1104がある。建物の東側は砂層が堆積し埋没した中世以前の谷部分で、南北方向に溝SD1900～1903が走る。B3地区の西半分にも同時期の遺構が存在する可能性はあるが、復元工事の影響深度の関係で未調査となる。ただし、礫層まで掘削し、調査したB4・B4S地区では当該期の遺構は確認されなため、西側にはあまり広げられない範囲で遺構が形成されたと思われる。また、調査区域西側のA2・C地区では、当該期から15世紀後半頃までの遺構は形成されなかった。基本層序では礫層上から砂層の堆積があり、低湿な状態が長く続いたと思われる。この他にB1地区でSB09・08、SA06がある。SD2172はこの時期から流路を変えつつ存続していく。当期では流路cを考えておく。SD3550は古代から存続している。SD1900・1901やSK1104等の出土遺物から、12世紀後半～13世紀前半を考えておく。

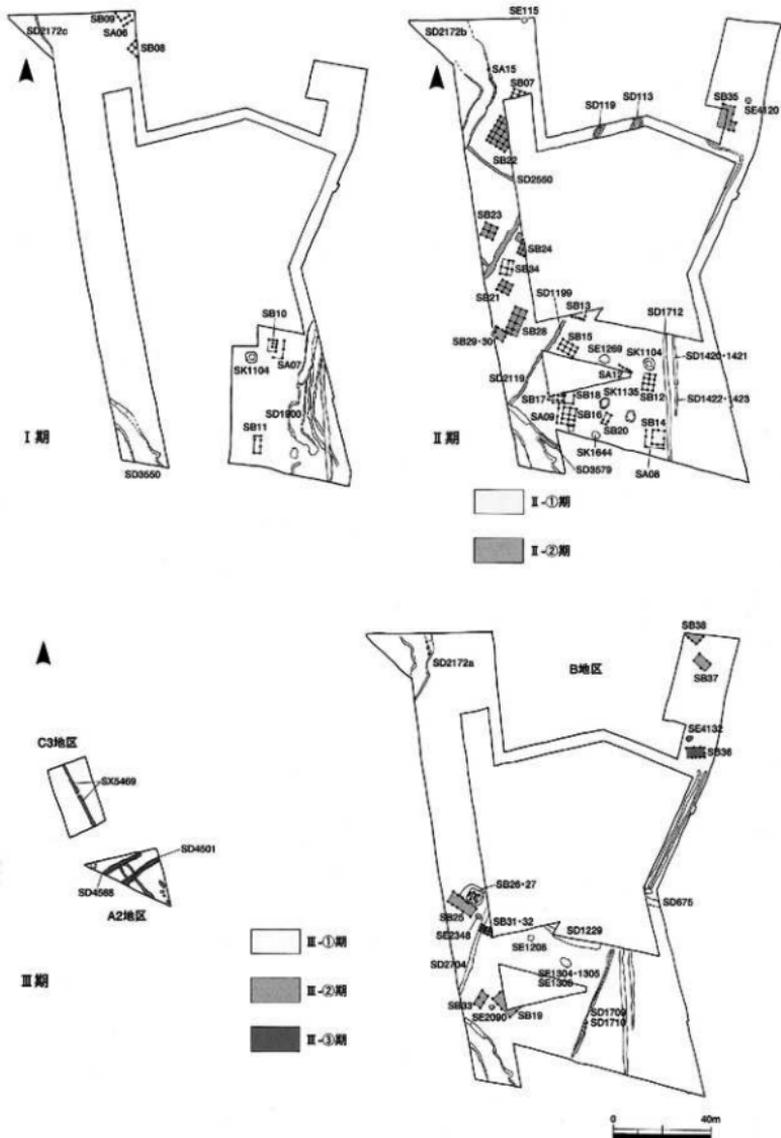
II期【13世紀】：B地区全体で遺構が確認され、二つの小期に分けられる。

①：I期の建物と近い主軸方位、もしくはそれに直交する方位を示す建物SB12～14・16～18からなる。他に横列SA08・09・13、木組井戸SE1269、I期から継続するSK1104、I期の礎石建物SB10を破壊して作られるSD1712がある。SD1712に平行するSD1420～1422の間は道と思われ、V期まで継続する。B2地区水路部分の溝群はこの段階から掘削され、何度か掘り直しが行われつつ存続する。これらの遺構はI期より後出するが、13世紀前半代になるとと思われる。

②：SD113・119・1199・2119・2948・2550・3579を区画溝とする。掘立柱建物はSB15・20～24・28～30・35で主軸方位を区画溝と平行、もしくは直交させる。SD2172は流路bとし、東側にはSA15により護岸がなされる。SB22はSD2172bに近接し、流路に沿った主軸方向となる。SB22の南側の区画となるSD2550はSD2172bに直交するような配置となる。自然流路を生かしつつ、溝とともに区画を作る。SB35には一部を石組で補強した木組井戸SE4120が伴う。13世紀後半を中心とする時期を考えておく。

III期【14～15世紀】：三つの小期に分けられる。

①：Ⅱ～②期の区画溝に対して、やや西に角度を変えたSD1229・1709・1710・2704により区画される。これらの溝は出土遺物から、15世紀前半には埋没していると思われる。区画内の石組井戸SE1208・1304・1305・1308はこの段階に位置づけておく。建物が明らかでないが、東西約50m、南北約



第197図 中世～近世遺構変遷図 (1)

45mの範囲が区画され、その内側に石組井戸も作られる。14世紀代には居住域として利用されていたと思われる。S D2371は底部出土の遺物から同様の時期と思われる、S D2371による区画内のS B26・27も同時期となる。特別に区画された仏堂のような存在と考えられる。

②：Ⅲ-①期の区画溝埋没後に作られたS B31・32がある。他にS B19・33、B 6地区のS B37・38となる。建物は側柱と構造を変え、溝による区画は確認されない。15世紀前半となる。

③：B 6地区S B36・S E4132、B 3地区S K1159、C地区の石列S X5469、A 2地区S D4501・4568が当てはまる。A 2・C地区でも遺構の形成が始まる。A 2地区では墓塚、C地区では石列が検出され、これらの調査区やその周辺は墓域や宗教的な施設があったことが考えられる。出土遺物から15世紀後半となる。

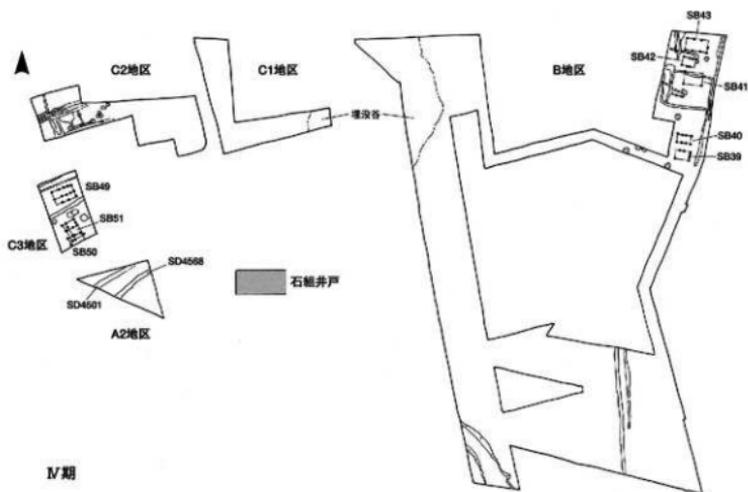
Ⅳ期〔16世紀〕：遺構の分布はB 6地区・A 2地区・C地区を主体とする。B 6地区とB 2地区の一部では、側柱の掘立柱建物S B39～43と石組井戸7基がある。建物は溝により区画されている。溝と建物の重複があり、少なくとも1度は建物・区画の変更があったと思われる。A 2・C地区では東西方向の溝で区画される。A 2地区では、Ⅲ-③期に作られた溝が徐々に埋没していく途中である。C 3地区では区画内にS B49～51があり、石組井戸S E5301・5223が付属する。出土遺物から区画溝はC 3地区で16世紀後半、C 2地区で17世紀初頭にはほとんど埋没している。

Ⅴ期〔17世紀〕：B 2・3・4・4 S地区の範囲に畠が作られ、近接して掘立柱建物S B44や土台建物の一部と思われるS K658がある。畠を区画する溝にはⅡ期～Ⅳ期の区画溝や、調査前の現況田の地割りと共通する部分も存在している。中世の地割りから、近世～現代の地割りへと変化する過渡的な状況を示している。A 2地区ではS X4502が土台建物の基礎となり、石組井戸S E4503・4577や排水施設S X4509が確認される。土台建物基礎部分の出土遺物から、17世紀後半と思われる。埋没したS D4501の北側に沿って道路状遺構S F4579があり、同じく埋没したS D4568内には墓塚S X4562・4563が作られている。C地区ではS B45～48が確認される。建物の前後関係が不明であるが、少なくとも2時期の変遷がある。建物が切れる井戸や土坑からは越中瀬戸や肥前陶磁器が出土しており、建物の構築時期は17世紀初頭以降と考えておく。

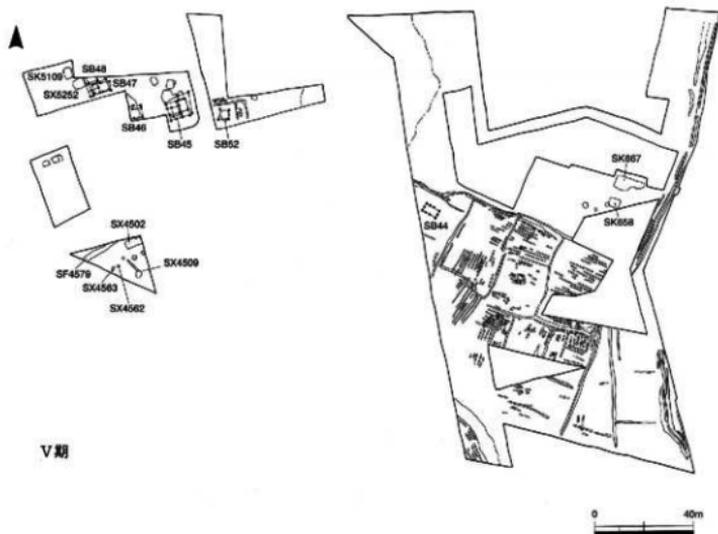
3 小 結

中名Ⅰ・Ⅴ遺跡は8世紀から遺構の形成が始まる。周辺の遺跡では、中名Ⅵ遺跡に7世紀代の堅穴建物、やや離れた砂子田Ⅰ遺跡では6世紀代に遡る遺物が確認されている。今回報告した遺構群に先行する遺構・遺物が周辺の遺跡から発見されており、徐々に崩壊地上への開発が進んできた様相が窺える。9世紀後半以降では中名Ⅱ遺跡や中名Ⅴ遺跡D 2地区で遺構・遺物が確認される。この時期では点在した遺構分布を示し、8世紀代の重複した遺構のあり方とは異なる。集中・継続的な土地開発の後、維持管理を目的とした小集団の経営へ移行されたのだろうか。いずれにせよ、集落のあり方に変化が起きたと言えよう。

中世以降では、12世紀後半から17世紀までの遺構・遺物が確認されている。12世紀後半には礎石建物が確認され、惣堂のような役割が想定される。13～14世紀では、総柱の掘立柱建物を中心とした遺構は調査区南側の範囲に多く、溝による区画がなされていく。中世前半では区画溝による居住空間が創出され、掘立柱建物が作られていく様子が確認された。建物の規模は30㎡を主体とし、他に50㎡前後と100㎡程の建物が散見される。15世紀以降は側柱の掘立柱建物となる。また、仏堂と思われる建物や墓塚などの宗教的な施設・空間が設けられていく。建物は25㎡前後が主体で、最大でも約50㎡となる。中世前半から後半にかけて、建物の構造変化や規模縮小が認められた。16世紀後半～17世紀に



IV期



V期

第198図 中世～近世遺構変遷図 (2)

かけては、それまで居住域であった範囲が耕地へと変わる。また、建物は欄柱で20㎡程の掘立柱建物の他に、建物の一部に石列の基礎を有する形態や、コの字状の石列を土台とする建物が認められる。中世後半から近世初頭にかけて、建物構造や利用する居住域が変化していく様相を追うことが出来た。

4 おわりに

今回、報告するに際し、発見された遺構や遺物に関する事実記載に重きを置いた。それは、先述したように、中名V遺跡北側部分や中名VI遺跡、道場I・II遺跡といった周辺遺跡の報告がなされた段階で、今回報告した遺構群も含めた評価を行う必要があると考えたからである。そのため、遺構・遺物に対する十分な考察は行ってないままではあるが、今後の調査報告の中でその責務を果たしていきたいと思っている。

(青山 晃)

引用・参考文献

- 上田秀夫 1982 「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』No.2 日本貿易陶磁研究会
 宇野隆夫 1989 「井戸考」『古代と中世の歴史と社会』 真臨社
 越中瀬戸焼発祥400年記念顕彰会実行委員会 1988 『越中瀬戸焼発祥400年記念誌』
 財団法人 富山県文化振興財団 1996 『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告書(遺構編)』
 財団法人 富山県文化振興財団 1996 『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告書(遺物編)』
 財団法人 富山県文化振興財団 1996 『梅原加賀坊遺跡・久戸遺跡・梅原安丸遺跡・田尻遺跡発掘調査報告』
 財団法人 富山県文化振興財団 1997 『埋蔵文化財調査概要—平成8年度—』
 財団法人 富山県文化振興財団 1998 『埋蔵文化財調査概要—平成9年度—』
 財団法人 富山県文化振興財団 1999 『埋蔵文化財調査概要—平成10年度—』
 財団法人 富山県文化振興財団 2000 『埋蔵文化財調査概要—平成11年度—』
 財団法人 富山県文化振興財団 2001 『埋蔵文化財調査概要—平成12年度—』
 財団法人 富山県文化振興財団 1998 『紀要 富山考古学研究』創刊号
 財団法人 富山県文化振興財団 2000 『紀要 富山考古学研究』第3号
 財団法人 富山県文化振興財団 2003 『清水島II遺跡・中名II遺跡・特田I遺跡発掘調査報告』
 佐賀県立九州陶磁文化館 1984 『国内出土の肥前陶磁』
 福光町教育委員会・富山県埋蔵文化財センター 1997 『富山県福光町梅原安丸IV遺跡』
 藤澤良祐 1997 「中世瀬戸窯の動態」『古瀬戸をめぐる中世陶器の世界—その流通と生産—』
 郷中町史編纂委員会 1996 『郷中町史 通史編』
 郷中町教育委員会 1999 『富山県郷中町総合公害防除特別土地改良事業に係わる埋蔵文化財包蔵地試掘調査報告書』
 北陸中世土器研究会 1983 『中世北陸の家・原敷・暮らしぶり』
 北陸中世土器研究会 1994 『中世北陸の寺院と墓地』
 北陸中世土器研究会 1997 『中・近世の北陸』 桂書房
 宮田進一 1988 『越中瀬戸の窯資料(1)』『大城』 第12号 富山考古学会
 森山勉・横山賢二郎 1978 『大宰府出土の輸入中国陶磁器について—型式分類と編年を中心に—』『九州歴史資料館研究論集』4 九州歴史資料館
 山本信夫 1988 『北宋期貿易陶磁器の編年—大宰府出土例を中心として—』『貿易陶磁研究』No.8 日本貿易陶磁研究会
 山本信夫ほか 1983 『大宰府桑坊跡II』『大宰府の文化財』7
 吉岡康輔 1994 『珠洲陶器の編年的考察』『中須恵器の研究』 吉川弘文館

図版1
航空写真
(1961年撮影)

中名丁V遺跡



図版2
航空写真
(1976年撮影)

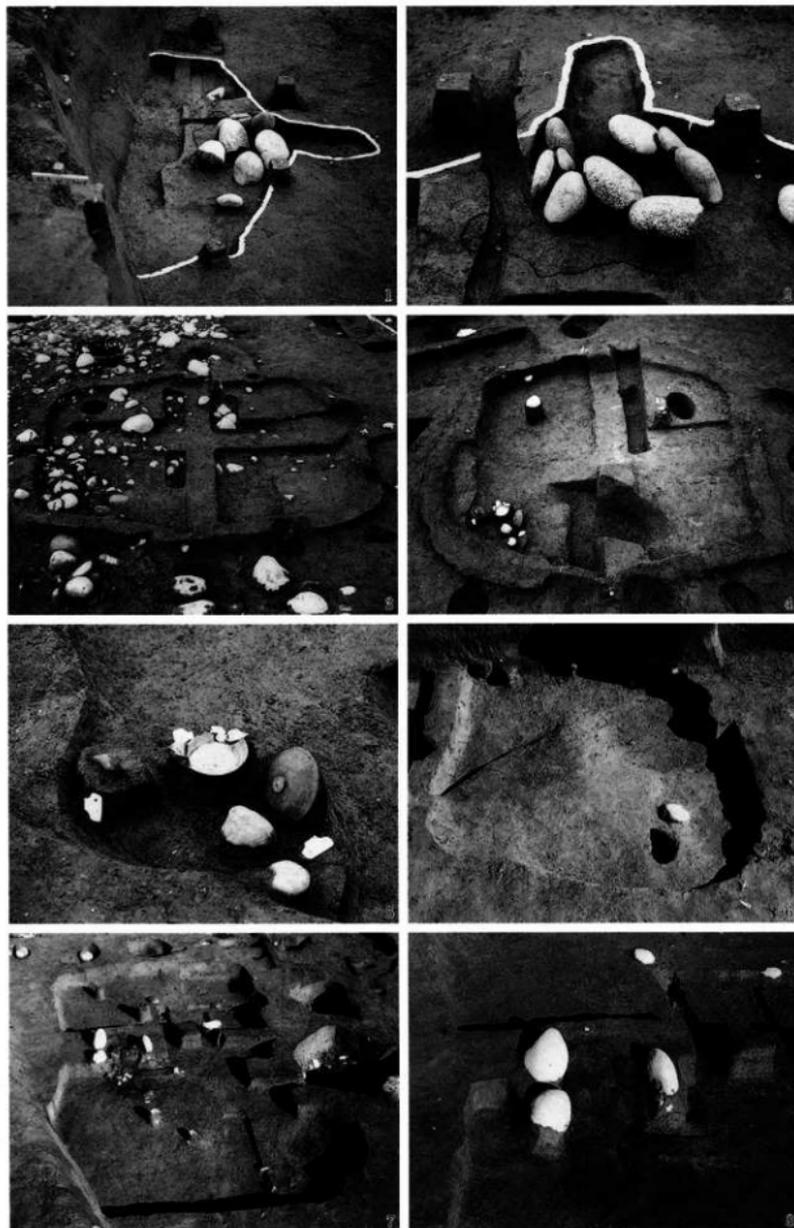


中名 I / 電路



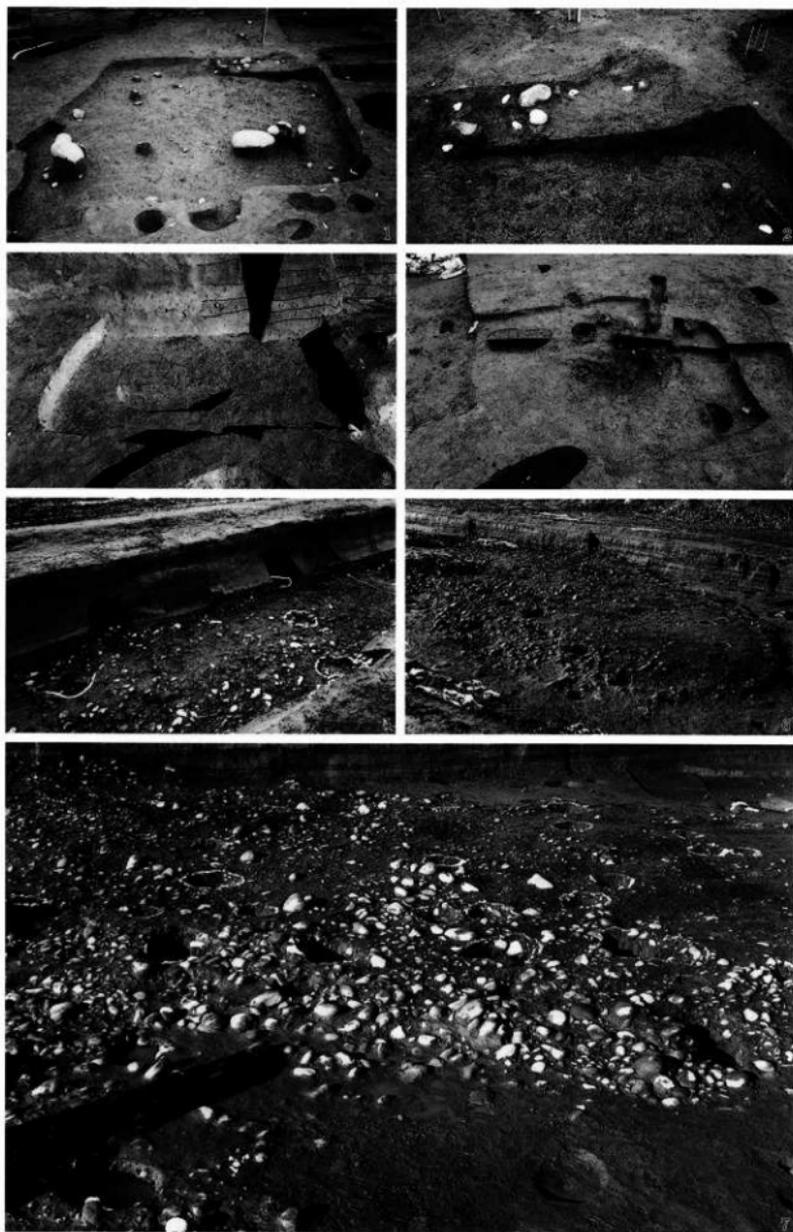
全景 (古代)

1. B4地区 全景 (北から) 2. B4地区北側 (南東から)



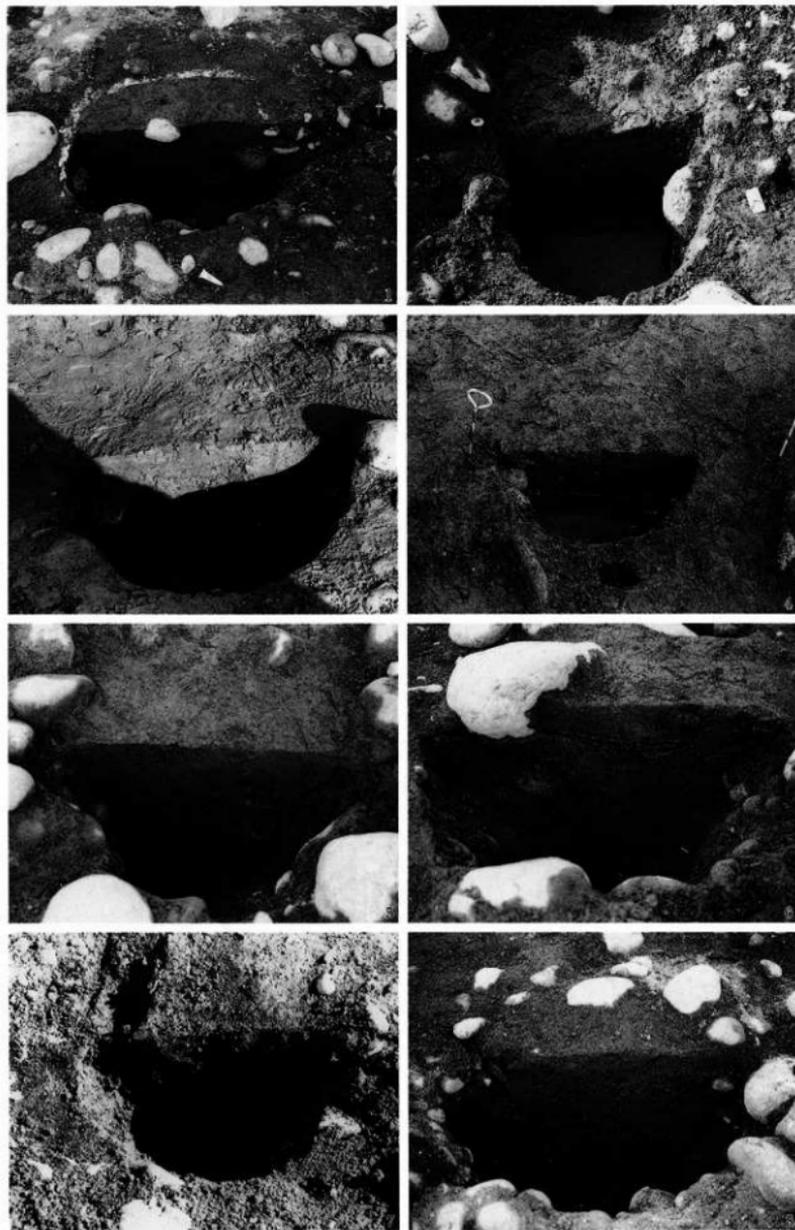
竪穴建物 (古代)

1. SI01 (南から) 2. SI01竈 (西から) 3. SI02 (南から) 4. SI03 (南から)
5. SI03 遺物出土状況 (南から) 6. SI04 (西から) 7. SI05・06 (南から) 8. SI05竈 (南から)



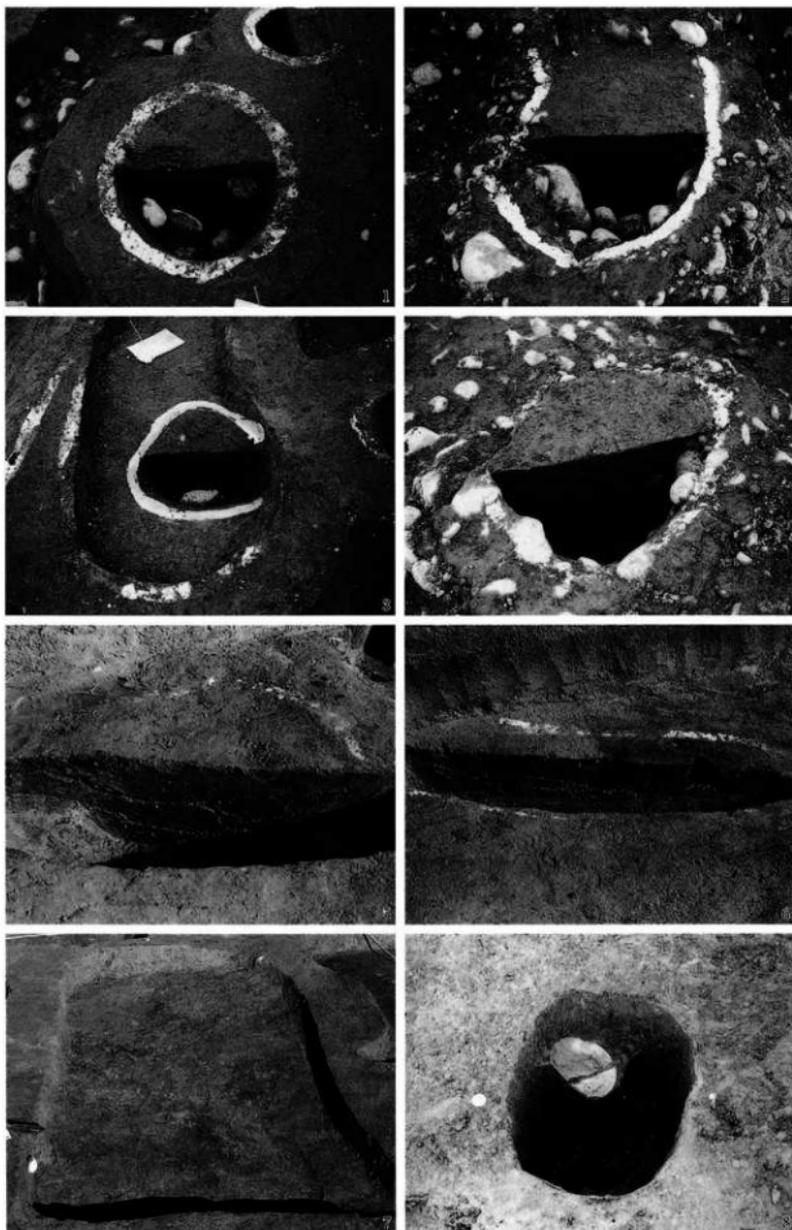
竪穴建物・掘立柱建物（古代）

1. SI07 (西から) 2. SI07 簷 (西から) 3. SI08 (西から) 4. SI09 (西から)
 5. SB01 (北から) 6. SB04 (北東から) 7. SB03 (東から)



柱穴 (古代)

- SB03 1. SP3054 (南から) 2. SP3309 (東から) 3. SP3313 (南から) 4. SP3334 (南から)
SB04 5. SP3276 (南から) 6. SP3278 (南から) 7. SP3345 (西から) SB05 8. SP3280 (南から)



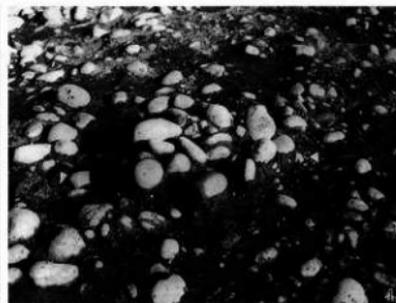
横列・土坑 (古代)

SA01 1. SP3249 (南から) 2. SP3259 (西から) SA02 3. SP3233 (南から) 4. SP3258 (南から)
 5. SK3201 (西から) 6. SK3202 (西から) 7. SK3283 (南から) 8. SK3346 (南から)



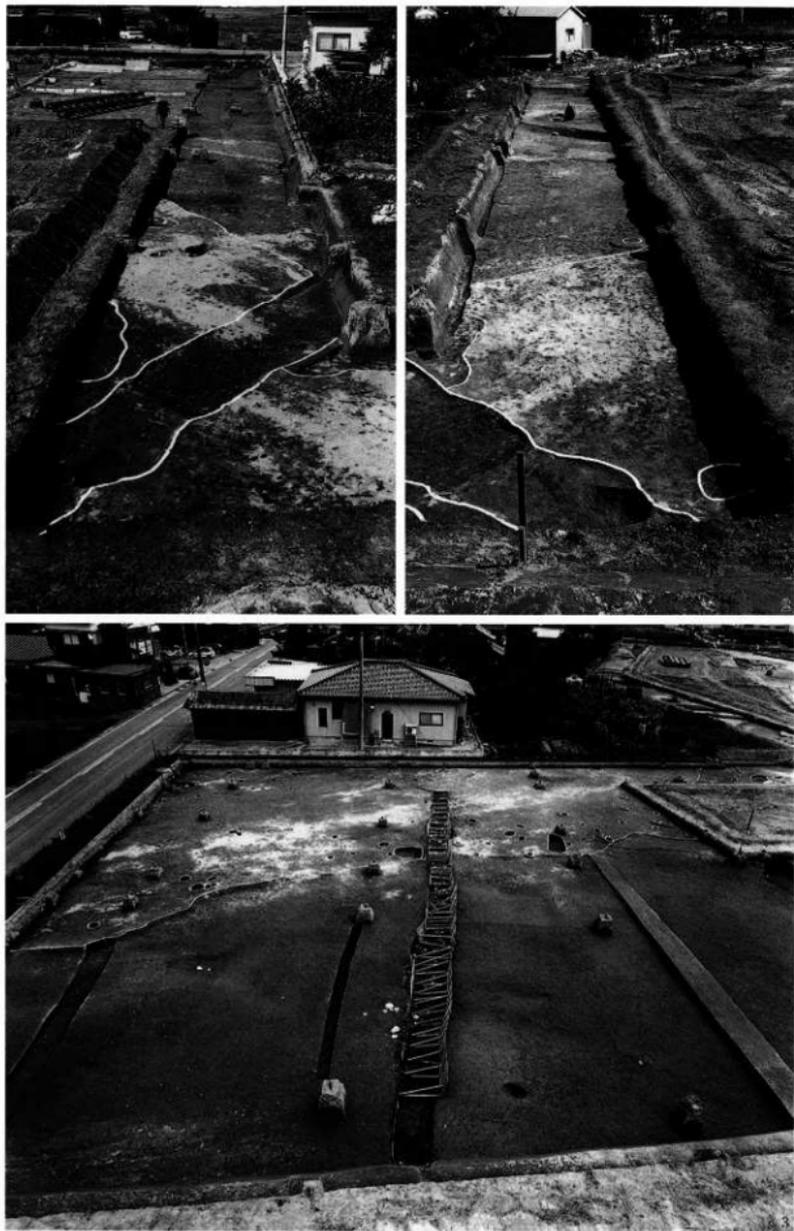
溝 (古代)

1. B1地区北側(南から) 2. SD284(西から) 3. SD3347(東から)



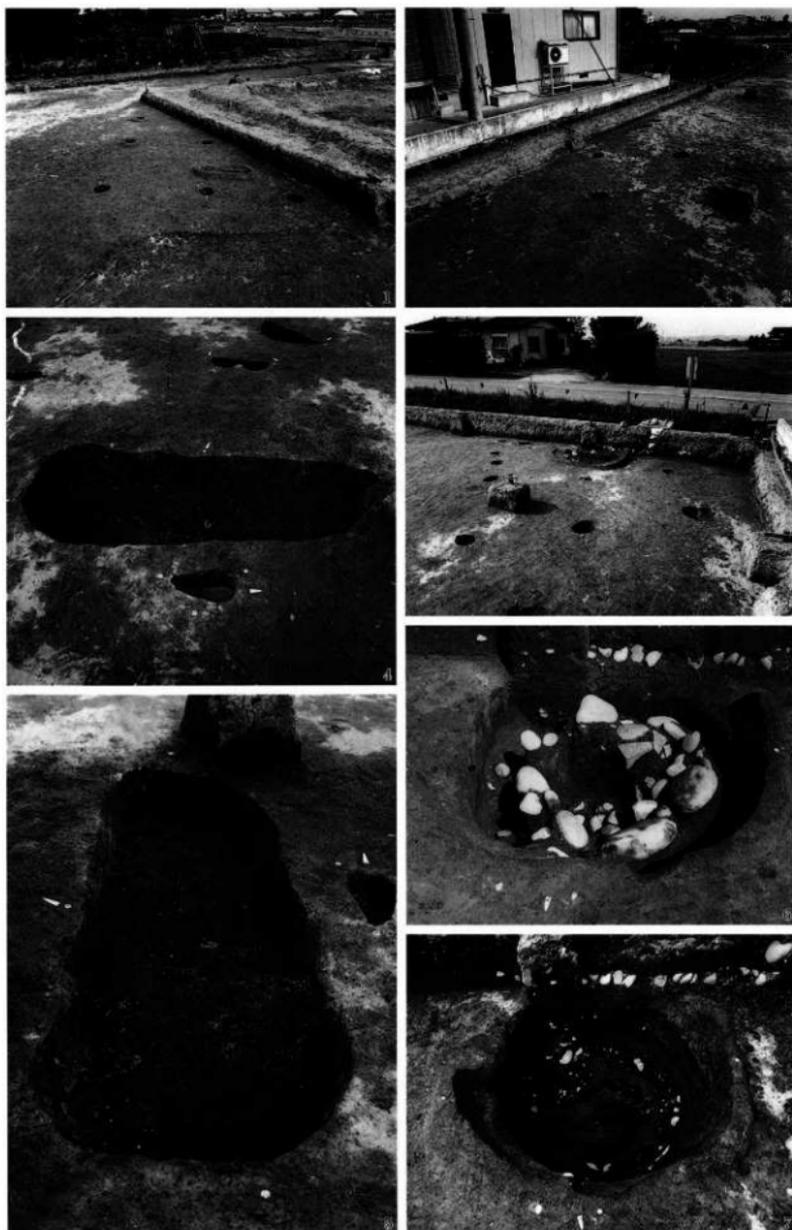
品・集石遺構 (古代)

品 1. B6地区 (南から) 集石遺構 2. SX3353 (東から) 3. SX3348 (南西から) 4. SX3349 (南から)



B1地区 全景 (中世)

1. 調査区水路部分 (南から) 2. 調査区水路部分 (西から) 3. 全景 (西から)



B1地区 堀立柱建物・土坑・井戸（中世）

1. SB07 (北西から) 2. SB08 (北西から) 3. SB09 (南から) 4. SK59 (南から)
 5. SK59 (西から) 6. SE115 礫出土状況 (南から) 7. SE115 (南から)



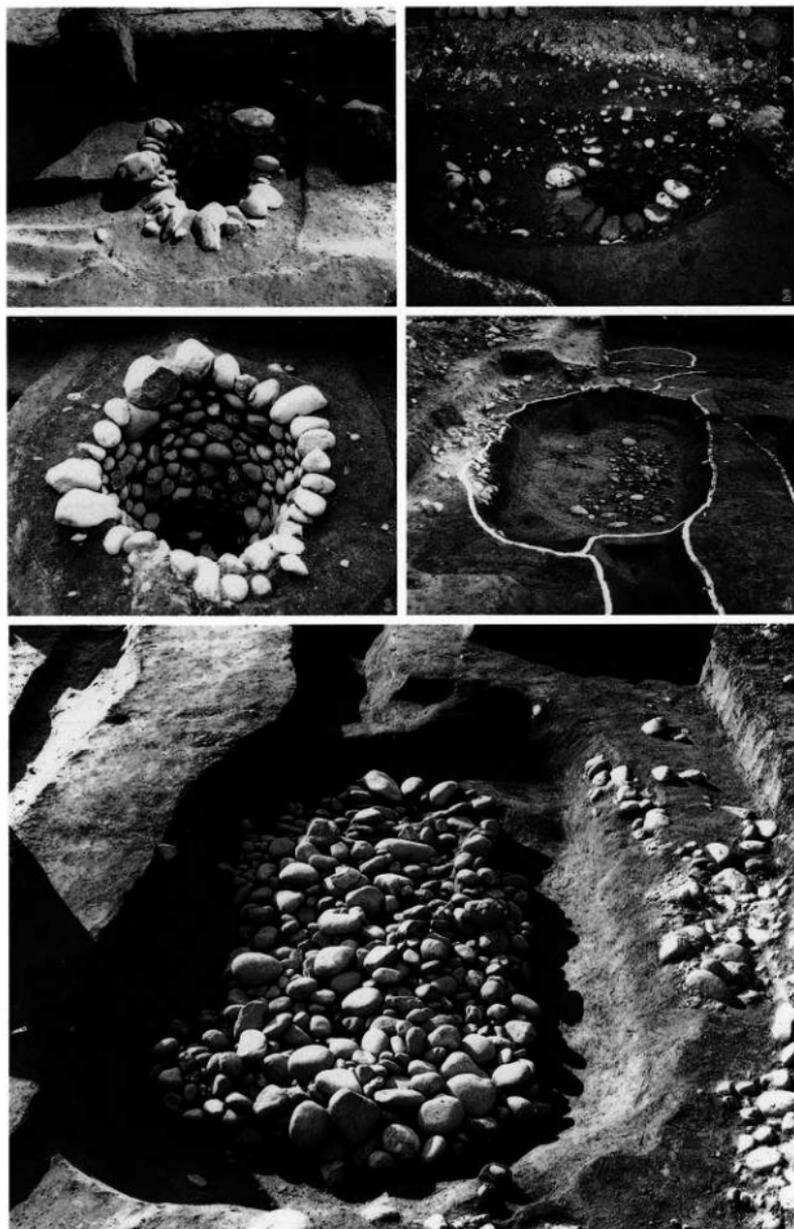
B2地区 全景 (中世)

1. 調査区北部 (東から) 2. 調査区南部 (北から)



B2地区 全景 (中世)

1. 調査区北部 井戸群 (南から) 2. 全景 (南から)



B2地区 井戸・土坑(中世)

1. SE731 (北から)
2. SE734・738 (南から)
3. SE740 (北から)
4. SK728 (西から)
5. SK728 露出上状況 (東から)



B3地区 全景・礎石建物（中世下層）
1. 全景（北から） 2. SB10（北から）



B3地区 全景・掘立柱建物（中世上層）

1. 全景（西から） 2. SB12（南から）



B3地区 掘立柱建物（中世上層）

1. SB15 (南から) 2. SB16~18 (北から)